

## 福 祉

### 1 教育課程研究協議会の経過（平成 21 年度～ 24 年度）

平成 21 年度から 24 年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年 度	1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 4 質疑応答 (1)教育課程に位置付ける際の配慮事項 (2)教育課程に位置付ける場合の具体例 (3)「社会福祉基礎」の現行との相違点	1 説明 (1)改訂の内容について (2)科目改訂の背景について (3)教科科目の目標について 2 協議 (1)「社会福祉基礎」の想定される実施状況と教科書について (2)11月11日 介護の日の取組 (3)外部施設実習の評価と評価規準、評定への反映 (4)福祉マインドを育成する指導ポイント
平成 22 年 度	1 全般的事項 (1)福祉科の目標及び科目編成の改善について (2)「総合的な学習の時間」の履修代替 2 各科目 3 教科「福祉」の教育課程の編成 4 指導計画の作成と内容の取扱い	1 説明 (1)高齢化に伴う人材育成や制度改正への対応について (2)「介護総合演習」の履修と代替について (3)地域や福祉施設、産業界との連携について 2 協議 (1)新科目「コミュニケーション技術」の内容 (2)実習指導・実習の評価
平成 23 年 度	1 指導計画の作成 (1)科目「介護福祉基礎」2単位の指導計画（例） 2 言語活動を充実する学習指導の実践例 (1)グループワーク (2)施設利用者との交流活動 (3)KJ法を活用した取組	1 説明 (1)言語活動の充実について (2)科目「介護福祉基礎」における指導計画の作成について 2 提言 (1)思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上を図るための指導の工夫～言語活動の充実～ (2)福祉教育における言語活動の充実について 3 協議 (1)地域と学校との連携した特色ある取組 (2)言語活動の実践
平成	1 学習指導の改善・充実 (1)学習指導の改善・充実の視点 (2)効果的な学習指導 2 評価方法の改善・充実 (1)学習指導の基本的な考え方	1 説明 (1)学習指導の改善・充実の視点と効果的な学習指導 (2)学習評価の基本的な考え方、配慮事項 (3)介護福祉士の資格取得方法 2 提言

24 年 度	(2) 学習評価における配慮事項	(1) 「思考力・判断力・表現力の育成・学習意欲を図るための指導と評価の工夫」
	3 学習評価の具体例	(2) 「思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上を図るための指導と学習評価の工夫・改善」
	(1) 科目「社会福祉基礎」における具体例	3 協議
	(2) 指導と評価の計画	(1) 実習日誌の形式
	(3) ワークシートの評価具体例	(2) 介護職員初任者研修の実施検討状況

## 2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

学校の教育活動は、計画(Plan)、授業実践(Do)、評価(Check)、改善(Action)という一連の活動が繰り返されながら、生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されているが、指導と評価は一体となるものであり、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導に生かすことができる評価の工夫・改善が必要である。

### 【科目「社会福祉基礎」(4単位)の年間指導計画例】

月	単元	具体的な学習内容	評価規準に盛り込むべき事項	評価方法
4	(1) 社会福祉の理 念と意義 ア 生活と福祉	・ 家族や地域の機能と役割の変 化、ライフスタイルの変化、ヘル スプロモーションなどの健康の考 え方や疾病構造の変化、社会構造 の変容などを取り上げ、家庭生活	【関心・意欲・態度】 社会福祉について関心をもち、生活 と福祉、社会福祉の理念、人間の尊厳 と自立について探求しようとしてい る。	・ 学習プリ ント ・ 聞き取り 調査レポ ート
5	イ 社会福祉の 理念 ウ 人間の尊厳 と自立	の機能や概要、人間の生活と社会 とのかかわり及び少子高齢化の進 行と介護の社会化との関連につい て学習する。 ・ 社会福祉の在り方や理念につい て、日本国憲法や社会福祉法、近 年の国際的な福祉の考え方などを 取り上げ、経済的救済中心から自 立生活支援へと変化してきたこと について学習する。 ・ 人間の尊厳と自立について、権 利擁護の視点から、日本国憲法、 世界人権宣言、自立生活運動など を通して、具体的に学習する。	【思考・判断・表現】 生活と福祉、社会福祉の理念、人間 の尊厳と自立について思考を深め、基 礎的な知識と技術を基に適切に判断 し、その過程や結果を適切に表現して いる。 【技能】 社会福祉の理念と意義に関する様々 な資料や情報を収集し、適切に選択し て活用している。 【知識・理解】 生活と福祉、社会福祉の理念、人間 の尊厳と自立に関する基礎的な知識を 身に付け、社会福祉の理念と意義を理 解している。	・ 調べ学習 レポート ・ 自己評価 カード ・ 授業への 参加態度
9	(4) 生活を支える 社会保障制度 ア 社会保障制	・ 日本の社会保障制度を構成する 社会保険、公的扶助、社会福祉、 公衆衛生などの各制度の意義や概 要について日本国憲法第13条及	【関心・意欲・態度】 生活を支える社会保障制度について 関心をもち、各分野の社会的背景及び 施策の概要と現状、課題について探究	・ 学習プリ ント ・ 聞き取り 調査レポ

10	<p>度の意義と役割</p> <p>イ 生活支援のための公的扶助</p> <p>ウ 児童家庭福祉と社会福祉サービス</p>	<p>び第 25 条と関連付けて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活保護制度を中心に公的扶助を扱い、生活保護制度の基本原則や保護の原則、保護の種類、保護の動向などを取り上げ、制度が生まれてきた社会的背景、理念、現状について学習する。</li> <li>児童及び家庭を支える社会福祉サービスについて、関係する法規や出生数及び合計特殊出生率、乳児死亡率、人口構成、平均世帯人員、労働力率などを取り上げ、各制度が生まれてきた社会的背景、理念、社会福祉サービスの概要と現状について学習する。</li> </ul>	<p>しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>生活を支える社会保障制度について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【技能】</p> <p>生活を支える社会保障制度に関する様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>生活を支える社会保障制度に関する基礎的な知識を身に付け、各分野の社会的背景及び施策の概要と現状、課題について理解している。</p>	<p>ート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習レポート</li> <li>自己評価カード</li> <li>授業への参加態度</li> <li>定期考査</li> </ul>
1 2 3	<p>(3)</p> <p>社会福祉思想の流れと福祉社会への展望</p> <p>ア 外国における社会福祉</p> <p>イ 日本における社会福祉</p> <p>ウ 地域福祉の進展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英国における社会福祉思想の発展について、エリザベス救貧法、新救貧法、慈善組織化運動、セツルメント運動、ベヴァリッジ報告、シーボーム報告などを取り上げ、福祉国家啓成の概要について学習する。</li> <li>日本における社会福祉思想の発展について、社会福祉が制度として確立されていく明治期以降を中心に扱い、恤救規則、救護法、民間の社会事業、社会福祉三法と社会福祉事業法、社会福祉六法と国民皆保険・皆年金、社会福祉の見直し期と改革期、介護保険制度と障害者自立支援制度などを取り上げ、我が国の社会福祉の歴史的な展開を具体的に学習する。</li> <li>福祉社会を創造する住民主体の地域福祉の考え方や進展について、近年の社会福祉の動きと地域福祉を進展するために様々な社会資源などを取り上げ、地域福祉の意義や役割について学習する。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>社会福祉思想や地域福祉について関心をもち、外国における社会福祉、日本における社会福祉、地域福祉の進展について探究しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>外国における社会福祉、日本における社会福祉、地域福祉の進展について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に適切に判断し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【技能】</p> <p>社会福祉思想の流れと福祉社会への展望に関する様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>社会福祉思想の流れと福祉社会への展望に関する基礎的な知識を身に付け、社会福祉思想が発展してきた過程、地域福祉の意義や役割を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習プリント</li> <li>聞き取り調査レポート</li> <li>調べ学習レポート</li> <li>自己評価カード</li> <li>授業への参加態度</li> <li>定期考査</li> </ul>

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価の機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。さらに、各学校においては、評価が学期末などに偏ることのないよう、評価の時期を工夫したり、学習の過程における評価を一層重視したりするなど、評価の場面についても工夫することが考えられる。

### 3 観点別学習状況の観点ごとの総括

#### (1) 科目「社会福祉基礎」における評価の総括例

観点別学習状況の総括の考え方としては、「十分満足できる」状況と判断されるものを(A)、「概ね満足できる」状況と判断されるものを(B)、「努力を要する」状況と判断されるものを(C)として評価を行い、その組合せにより総括する方法、A、B、Cを数値化してその平均値を基にして総括する方法などが考えられる。

#### 【社会福祉基礎 事例 単元名 「外国における社会福祉」】

科目名	社会福祉基礎			
単元名	(3) 社会福祉思想の流れと福祉社会への展望 ア 外国における社会福祉			
単元の目標	諸外国の社会福祉思想の流れを取り扱い、どのような歴史的経過を経て社会福祉が成立してきたのか、諸外国の社会福祉思想の歴史と発展について理解させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
単元の評価規 準	・英国、アメリカ合衆国及びスウェーデンなど北欧諸国の福祉国家形成の歴史と発展に対して関心をもち、近年の諸外国の社会福祉の状況について意欲的に探究しようとしている。	・英国、アメリカ合衆国及びスウェーデンなど北欧諸国の社会福祉思想の発展やアジア地域の社会福祉の現状について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、社会福祉の歴史的展開を適切に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	・英国、アメリカ合衆国及びスウェーデンなど北欧諸国の社会福祉思想の発展やアジア地域の社会福祉の現状についての様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。	・英国のエリザベス救貧法などについて把握し、福祉国家の形成過程について理解するとともに、アメリカ合衆国の社会福祉思想の発展やスウェーデンなど北欧諸国の福祉国家形成、アジア地域の社会福祉の現状や課題についても把握し、その基礎的な知識を身に付けている。
指導と評価の 計画(8時間)	第1次 ヨーロッパの社会福祉(社会福祉のはじまりと英国での社会福祉の発展)	3時間	第2次 ヨーロッパの社会福祉(スウェーデンなど北欧の福祉国家の形成と発展)	2時間
	第3次 アメリカ合衆国の社会福祉(民間社会事業の先駆と世界初の社会保障法)	1時間	第4次 アメリカ合衆国の社会福祉(最近の社会福祉の動向)	1時間
	第5次 アジアの社会福祉(アジアの少子高齢化と社会福祉の課題)	1時間		
評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
第1次	・相互扶助や慈善事業の実	・英国における救貧法		・ベバレッジ報告や国民

ヨーロッパの 社会福祉 (3時間)	施主体や実施内容の理解を 通して、問題点に関心をも ち、各国の組織的社会事業 にどのように結びついたの かをまとめている。	の内容に関する理解を 通し、その問題点に関 する思考を深め、その 結果民間社会事業が発 生したことを理解し、 適切にまとめている。	保健サービスに関する基 礎的・基本的な知識を身 に付け、英国の福祉国家 体制構築の過程について 理解している。
-------------------------	---	--	---

### ア 単元における観点別ごとの評価の総括例

ここでは、「学習活動に即した評価規準」の各規準ごとに、A、B、Cの3段階で評価を行い、「十分満足できる」状況（A）を3点、「おおむね満足できる」状況（B）を2点、「努力を要する」状況（C）を1点として点数化し（表1）、各観点別の合計点を各規準の数で除した数値を平均値で示している（表2）。

なお、この教科は、社会福祉関連施設に従事する介護福祉士養成を目指している側面をもっていることから、「おおむね満足できる」状況（B）以上を介護福祉士国家試験受験資格相当と設定し、観点別評価の平均値が2.0以上2.5以下の場合をBとしている。また、平均値が2.5より大きい場合をA、2.0未満の場合はCを単元ごとの評価とする。（表3）

表1 各評価規準の点数例

「十分満足できる」状況(A)	= 3点
「おおむね満足できる」状況(B)	= 2点
「努力を要する」状況(C)	= 1点

表3 観点別評価の分割点例

$2.5 < A$
$2.0 \leq B \leq 2.5$
$C < 2.0$

表2 単元末の総括の例

	関心・意欲・態度			思考・判断・表現	技 能	知識・理解	
	観 察	ワークシート	レポート	ワークシート	ワークシート	テスト	ワークシート
第1次	B(2)	A(3)		A(3)		A(3)	
第2次					A(3)		B(2)
第3次			B(2)			A(3)	
第4次				C(1)			
第5次							A(3)
点数化	$(3 + 2 \times 2) \div 3 =$ 2.33			$(3 + 1) \div 2 =$ 2.0	$3 \div 1 =$ 3.0	$(3 \times 3 + 2) \div 4 =$ 2.75	
総括	B			B	A	A	

### イ 学期末及び学年末における観点ごとの評価の総括例

学期末における観点ごとの評価の総括は、単元ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、学習過程における評価情報から総括する場合が考えられる。ここでは、表2と同様に、各観点別の合計点を各単元の数で除した数値を、表3の「観点別評価の分割点例」に対応させて評価を行っている。（表4）

表4では、単元末集計評価と定期考査の評価により最終的な学期末総括を行い、定期考査の評価を重視して学期末総括を行っているが、その逆や等しい重みで総括する場合もある。

また、学年末における観点ごとの評価の総括は、学期末に総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、単元ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合などが考えられる。

表4 学期末の総括の例

単元	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	A(3)	A(3)	B(2)	A(3)
2	A(3)	B(2)	C(1)	B(2)
3	A(3)	B(2)	A(3)	C(1)
4	B(2)	B(2)	A(3)	C(1)
点数化	$(3 \times 3 + 2) \div 4 = 2.75$	$(3 + 2 \times 3) \div 4 = 2.25$	$(3 \times 2 + 1 + 2) \div 4 = 2.25$	$(3 + 2 + 1 \times 2) \div 4 = 1.75$
単元末集計評価	A	B	B	C
定期考査	A	C	B	B
学期末総括	A	B	B	C

#### ウ 観点別学習状況の評価の評定への総括例

評定が各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況の評価は各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

なお、評定への総括の場面は、学期末や学年末等に行われることが多い。学年末の評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した評価の結果を基にする場合が考えられる。

ここでは学期末の評定への総括及び学年末の評定への総括を、A、B、Cの組合せによって以下のように5段階で表す。

評定	各観点の評価結果A, B, Cの組合せ
5	AAAA、A A A B
4	A A B B、A A A C、A B B B、A A B C
3	A A C C、A B B C、B B B B、A B C C、B B B C
2	A C C C、B B C C、B C C C
1	C C C C